視覚障害の山田さん 描いて、触れて、支えられて

重ねた工夫 絵手紙づくり充実

「自分の可能性追いかけて」

視覚障害があるものの、絵手紙を楽しむ山田英雄さん（右）。講師の斉藤美雪さんが見守る

札幌市北区のはり・きゅう治療院経営、山田英雄さん（48）は視覚障害があるものの、絵手紙を楽しんでいる。制作は工夫を重ね、絵や字が盛り上がる立体プリントも活用。作品に触れて出来栄えを確認できるようになり、やりがいが増した。「支えがあれば実現できることはたくさんある。障害のある人も可能性を追いかけてほしい」との思いを強くしている。（相川康暁）

11月上旬、北区の交流カフェ「りあん」で開かれた絵手紙教室。はがきに刺した虫ピンを起点に、山田さんが湯飲みを描き始めた。1筆目の場所をわかりやすくする工夫で、講師の斉藤美雪さん（54）と考えた。テーマは自宅にある日用品が中心。描く前に時間をかけて触ることで、絵をイメージしやすくするためだ。斉藤さんは極力手を出さずに見守り、1年がたつ。

山田さんは1993年、網膜色素変性症と診断された。現在の視力はほぼなく、車のヘッドライトや店の照明など光をわずかに感じる程度。「昼間は霧の中にいる感じ」という。

北区で2017年に治療院を開業した。地域の住民に治療院を知ってもらおうと、近所で開かれる健康教室などに参加する中、治療院から100㍍ほど離れたところにある絵手紙教室を知った。

昨年11月に「できるかどうかわからず、見学のつもりくらい」で参加。初めての作品は「言われなければわからないピーマン」。ただ「どうすれば書けるかを知りたい」と呼び掛けている。

札幌管区気象台によると、21日午後5時までの最高気温は札幌市4・0度、新千歳空港（千歳市）4・2度、江別市2・4度といずれも12月上旬並みの寒さ。札幌市中心部は歩道の日陰部分が凍結し、バス停で待っていた南区の主婦関戸幸子さん（71）は「横断歩道は特に滑る。今春に膝を手術したので絶対に転べない」と気を引き締めていた。

市消防局によると、5日から歩くなど、注意してほしい」と呼び掛けている。

私の目線で教えてくれてうれしかった」という。斉藤さんが繰り返す「下手でいい、下手がいい」という絵手紙の心得も、また通いたいと思える力になった。

さらに今年5月、SINKA（シンカ）社（東京）が販売する立体プリンターと出合った。色の濃い箇所は高く、淡い箇所は低く、点字のように盛り上がって印刷される。同社の好意で、作品の写真を送ると、立体プリントして返送してもらえるようになった。当初は彩色もしていたが、今は墨のみ。作品を触ると、濃淡でより出来栄えがわかるようになったという。

10月からは山田さんの着けたカメラとマイクを通じ、支援者が画像や文章を読み上げてくれる、リモートアシスト社（大阪）の遠隔援護サービスも取り入れた。自分や他の人の絵手紙の絵や文章の内容を読んでもらえる。山田さんは「絵手紙を描けて、触って、内容も理解しやすくなった。周囲のおかげ」と感謝する。

日本絵手紙協会（東京）は「全国に教室はあるが、視覚障害者が受講するのは珍しい」という。山田さんは「さまざまなことをできるかどうか迷う障害者は多いかもしれない。ただ、人とのつながりや工夫で乗り越えられることもある。視覚障害がある人にも絵手紙の楽しさが広がってほしい」と話している。

つるつる路面 ヒヤヒヤ歩き

で転倒事故相次ぐ

れ、つるつるになった札幌中心部の重に歩く人が目立った＝21日午後0札幌市中央区北1西2

ウガンダ派遣 陸自隊員帰国

北部方面隊の18人

【千歳】ウガンダの軍隊に重機操作を指導するため、現地に派遣されていた陸上自衛隊北部方面隊の隊員18人が21日、帰国し、新千歳空港に到着した。

帰国したのは、第3施設

団第12施設群中心とする教備などのため、できる人材を国活動（PKO）

る予報」を出しているウインターライフ推進協議会（札幌）は「日中解けた雪が凍ると滑りやすい」と対策を呼び掛ける。今季の予報は22日から配信する。

中央区大通西3の靴修理店「エコクラフト札幌大通店」は靴底の滑り止め加工の注文が1週間前から殺到し、多い日は100足ほど。担当者は「出勤前に預ける人が多く、21日も午前8時半の開店時に2、3人待っていた」という。

気象台によると22日から

きょうと明朝の天気　最高気温 最低気温

15 18 21 0 3 6 9　きょう きのう

8 4